

日中友好のための精神科・認知症研修受け入れ事業
(八幡厚生病院に於ける国際交流の試み)

医療法人翠会 理事長
八幡厚生病院附属介護老人保健施設
ナーシングセンター八幡
施設長 齊藤 雅

2016年5月10日に、八幡厚生病院のHPお知らせ欄のニュースとして、南京青龍山精神病院との交流について、林田看護部長が寄稿しています。今回は、この事業の開始とその後の経過について報告したいと思います。

2014年の春、「中国南京の精神科病院で認知症の研修を希望してる病院があるが、八幡厚生病院はどうですか？」という打診が、福岡県精神科病院協会理事で北九州ブロック会長の松尾典夫先生（松尾病院院長）からありました。私は、看護課と相談して、軽い気持ちで研修の受け入れを了解しました。始まりは、40年以上中国との交流を続けてこられている元県議会議員で北九州手をつなぐ育成会元理事長の北原守氏からの相談です。2014年11月に、研修に関する覚書を書面交換し、第1回目の研修は、11月20日から2015年2月15日、5名の研修生を受け入れました。これが、中国江蘇省の南京青龍山精神病院（現、佑安病院）との交流の始まりでした。この5名は、初めての海外体験で、言葉が通じないこと、いじめられないか？使命が果たせるか？という不安を抱いての来日でしたが、俄か作りの当院の宿泊所で、安心・安全な生活を送り、とても喜んで帰国しました。2015年3月17日、青龍山精神病院での報告会に招待され、北原氏、私とスタッフ2名（計4名）で、初めて南京市を訪れ、私は「愛を育てよう」という題で、精神病院の開放化・社会復帰・グループ療法について講演をしました。この時、福岡県と江蘇省（首都：南京市）の友好関係が20年間続いており、日中友好議員連盟もできている事を知りました。

初めて病院を訪問した時は、全閉鎖の慢性精神科病院でしたが、その後、病院の開放化を進め、作業療法センターの設置、社会復帰リハビリテーションセンター（南京市内）、認知症専門病院（500床）等が次々と開設され、訪問するたびに新しい試みを進めているので、多少心配もありますが夢と期待をもって南京を訪れています。第2回目は、2015年の予算の都合で、2016年5月から2016年7月となり、9月の報告会は江蘇省人民代表会議堂会議室で行われ、たくさんの人民代表委員や南京市民政庁副主任などが参加され、大変好評で高い評価を受けました。

今年は、江蘇省・福岡県友好25周年、日中友好のための江蘇・福岡桜花園（桜の公園）20周年となり、3月に福岡県議会の日中友好議員団が南京を訪問しました。それに先立ち、当院と佑安病院との交流について県議会でも質問があり、詳しく聞きたいとの議員連盟の要望で、福岡県庁でこれまでの経過や意義について説明をさせていただきました。更

に4月3日には、議員団が南京訪問時に会談した江蘇省人代委員や王明忠佑安病院院長・呂捷社会復帰部長（当院での第1期研修生）・齊桂花看護部長（同第1期研修生）との会談内容について詳しく報告をいただき、この福岡県の国際交流の内容に、「医療・福祉分野における交流」という項目も入れたいという考えをいただきました。

このようにして、当院に於ける3年間の研修受け入れ実績が県のレベルで認知され、日中友好促進と国際貢献活動の一つとして評価されるようにまできました。様々な考え方は有ると思いますし、この事業の意義については「後付」ではありますが、経済・文化交流だけではなく、医療・福祉の分野のささやかな活動がこのように評価されるのは、大変な喜びであると同時に、翠会・八幡厚生病院の評価を高めるものであると思います。今後も長く続けられる事業として、翠会ヘルスケアグループの中で位置付けしていければと考えています。

（2017年5月、文責：齊藤 雅）